

自然体験活動を楽しむために

みなさまに安全に楽しんでいただくため、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

①地震発生時

活動中大きな地震が発生した際は、周りに建屋や樹木などがない安全な場所(モンキチョウの広場、アキアカネの丘など)に避難をしてください。
ただし、ノギクの広場に関しては、崖崩れの可能性があるため、直ちに崖から離れた場所に避難してください。

②夜間の体験活動 利用時間は原則日の出から日の入りまで。

夜間利用の際は別途ご相談ください。

夜間に活動(ホタル観察やナイトハイク等)する場合、森の中には基本的に外灯がありません。

16:30で自然観察センターは閉館となりますので、トイレは野外トイレ(自動照明あり)をご利用ください。また、夜間は自然観察センターは無人的となりますのでご了承をお願いします。

③マナー

館内(自然観察センター内)マナー

多人数でのご利用をお控えください。
館内の展示物はさわらずにご覧ください。
図書の閲覧をご希望の場合はカウンターの職員にお声かけください。

フィールドマナー

園内には、一般の来園者も多くいらっしゃいます。野外活動をする際や森を歩く際には、一般の来園者がいたら、あいさつを交わし、道は譲りあうようにして、お互いに気持ちよく自然観察の森を利用できるよう心掛けてください。



火・コンロは
使わない



ポイ捨ては
しない



静かさを
乱さない



ペットは
つないで



ゴミは
うちまで



生きものを
持ち帰らない
持ちこまない



ボール遊びは
しない



道から
はずれない



自転車は
ゆっくりと

④注意が必要な生きもの

園内には注意が必要な生きものも生息しています。
服装は長袖、長ズボン、帽子の着用がおすすめです。
また以下の生き物については裏面に対処を確認してください。
現地ではレンジャーの行う15分対応の中で、出会った際に気をつける点についてお伝えすることも可能です。

- 1.ハチ(スズメバチ・アシナガバチ・ミツバチ)
- 2.ヘビ(マムシ・ヤマカガシ)
- 3.マダニ
- 4.カバキコマチグモ
- 5.ウルシの仲間(ヌルデ・ツタウルシ・ヤマハゼ)

ハチに刺されたりヘビにかまれた時、その他の怪我をされた時、それから具合が悪くなった時は、自然観察センターに必ずご連絡ください。救護室がご利用になれます。また、状況に応じて自然観察センターTel045-894-7474より救急車を手配いたします。

また休館及び夜間(閉館後16:30以降)の際には、
宿泊施設 **上郷・森の家Tel045-895-5151** または
警備会社 **京浜警備Tel045-461-0105**にご連絡ください。

～注意が必要な生き物～

1.ハチ

＜襲われないために＞

- ・攻撃された際特に標的になるので、黒系統の色の服はさけてください。また帽子をかぶる等黒い頭髪を覆ってください。
- ・ハチが寄ってきてしまうので、香水、整髪料などはひかえてください。
- ・甘いにおいのする飲み物は、缶の中などに入ってきてしまうこともあります。



＜出会ったら＞

- ・近くにいるときは、じっとしてやり過ごす
近くに来ても手で追い払わず、動かずに遠ざかるのを待つか、後ずさりしながらゆっくりとその場を離れてください。
- ・巣を見つけた時は近づかない
巣に気づいたら姿勢をできるだけ低くして、ゆっくりその場から離れてください。またハチは攻撃態勢に入ると「カチカチ」と威嚇音を出します。その場合は立ち止まらず、静かに離れてください。

＜万が一ハチに刺されたら＞

- ・傷口を水で洗って、毒を洗い出してください。
「ポイズンリムーバー(毒吸引器)」「虫刺され薬ステロイドホルモン含有の抗ヒスタミン軟膏」を常備してあります。
症状が重い(めまい・嘔吐、発疹等)場合には救急車を手配いたします。

5.ウルシの仲間

ヌルデは、
毒性は低い
が稀にかぶれる
ことがあります。
本数はたくさん
あります。

小葉が3～6対対照的に並んでいる

ヌルデ

ツタウルシ、
ヤマハゼは
毒性が強い
のでさわらない
こと。本数は限
られています。

茎が赤色

葉軸に翼がある



ツル 葉が3枚



ヤマハゼ

* この他食べてはいけない、毒をもつ植物も何種類があります。レンジャーに確認してください。

2.ヘビ

- ・観察の森にはマムシやヤマカガシといった毒をもっている種類もあります。
- ・ヘビに出会った際はつかまえたり、つつくようなことは絶対にせず、離れたところから観察するようにしてください。
- ・毒をもったヘビにかまれた場合は、救急車を手配いたします。



マムシ

3.マダニ (国立感染症研究所HP参照)

- ・SFTSという病気を媒介することがあります。
- ・藪の植物の上にははい上がってきて、体の柔らかい部分にいつつき、1週間から10日位離れません。
- ・藪をかき分けて入らないようにしましょう。
入った時には、お風呂に入る前に体にマダニが付いていないか確かめてください。
- ・対策には、袖・裾・襟から侵入されにくい服装、蚊よけと同じ虫除け剤(ディートやイカリジンの含まれる忌避剤)の使用がおすすめです。膝から下や靴の中にスプレーするとよいです。
- ・無理に取ったりつぶしたりせず、医療機関(皮膚科や外科)で取り除いてもらうようにして下さい。



4.カバキコマチグモ

- ・夏から秋にかけてススキなどの、イネ科の植物の葉をまいて巣を作ります。
- ・葉を開いて巣をこわすとかまれ、ひどくはれます。
みつけてもこわさないようにして下さい。



(↑上記の写真は近縁種のヤマトコマチグモです。)